

平成 29 年 2 月 24 日

浜田市議会議長 西田 清久 様

福祉環境委員会委員長 道下 文男 印



委員派遣報告書

下記のとおり、派遣しましたので報告します。

記

1 期 間 平成 29 年 1 月 19 日(木)～1 月 20 日(金)

2 場所及び目的

(1)福岡県大木町 (おおき循環センター)

- ・ 環境問題・ごみ減量化について
- ・ 循環のまちづくりの推進について

(2)福岡県大牟田市

- ・ 地域認知症ケアコミュニティ推進事業について

3 精算額 一人当たり 39,730 円

4 派遣委員名

道下文男・足立 豪・柳楽真智子・小川稔宏

平石 誠・澁谷 幹雄・西村 健

5 調査の概要 別紙報告書のとおり

福祉環境委員会 行政視察報告書

福祉環境委員長 道下文男

大木町

1. 視察先

福岡県大木町

2. 視察に至った経緯

大木町では、2006年11月に生ごみやし尿・浄化槽汚泥などを熱エネルギーや有機肥料に変換するバイオマスセンター―おおき循環センター“くるるん”を建設し、循環型社会の実現をめざす先駆けとなるとともに、2008年には大木町もったいない宣言（ゼロ・ウェイスト宣言）を行い、ごみ総量の削減やリサイクル率の向上で大きな成果をあげている。

数年前まで減少傾向にあったごみ総量が、近年、再び漸増傾向にある浜田市にとって、ごみ総量の削減や環境に配慮したまちづくりは大きな課題の一つであり、大木町に学びたいと考えた。

3. 町の概要

福岡県南部、筑後平野の中央部、水郷柳川に隣接した農業の町で、掘割が町の面積の14%（総延長215km）を占める。

■人口：14,374人、4,834世帯（2016年9月）

■面積：18.44km²

■目指す将来像：緑の風が吹き渡るふるさと 暮らし輝く環のまち・おおき

■予算：55.5億円（H28当初）

■財政健全化比率：◇実質公債費比率：7.5%、◇将来負担比率：－

■議員定数：12人

■首長：石川 潤一【s 29.10.17生まれ】2年目（元市職員 企画総務部長、副市長歴任）

■観光：循環のまちづくりに取り組み、2006年2月にバイオマスタウンに認定される

■特産：苺・シメジ・えのき・花ござなど

4. 調査項目

○循環のまちづくりの推進について

○ごみの減量化について

5. 視察日時

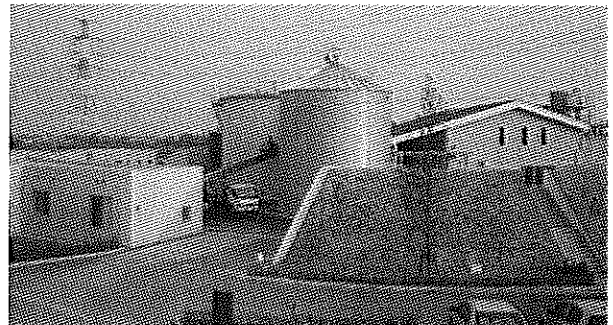
2017年1月19日（木）午後

6. 視察内容

おおき循環センター“くるるん”に隣接する道の駅で昼食をとった。女性や家族連れで大賑わいで、平日でも予約しないと食べることができないほど盛況と聞いた。昼食後、おおき循環センターにおいて、当センター建設に関り、約20年間にわたり環境に関わる職場に就いてきたという酒井副町長から、「持続可能な循環のまちをめざして」と題するお話を伺った。

■おおき循環センター“くるるん”―循環のまちづくりの拠点

ごみの資源化や太陽光などの自然エネルギー普及など、環境にやさしい循環型の地域社会づくりを目指してきた大木町では、2006年11月に生ごみやし尿・浄化槽汚泥などを熱エネルギーや有機肥料に変換するバイオマスセンター―おおき循環センター“くるるん”を建設し、2010年4月にはインフォメーションセンターや農産物直売所、地産地消レストランを備えた“道の駅おおき”がオープンさせ、大木町がめざす循環のまちづくりの拠点が完成。見学者は、年間3,000～4,000人とのこと。



循環センター くるるん

○おおき循環センター整備事業

整備期間 2005年度～2009年度

総事業費 11億2,000万円 (バイオマスの環づくり交付金：補助率1/2)

【事業内訳】

第一期工事 (2005年度～2006年度)

- ・メタン発酵施設 (施工：三井造船(株)) 5億1,966万円
- ・管理学習施設、バイオの丘(施工：(株)熊丸組) 1億8,165万円

外部施設・関連設備など

- ・外部液肥タンク、車庫 約7,800万円
- ・液肥散布車両・運搬車両他 約5,700万円

第二期工事(2008年度～2009年度)

- ・農産物直売所・郷土料理レストラン・交流広場など 約2億2,000万円

■大木町もったいない (ゼロ・ウェイスト) 宣言 (前文略)

1. 先人の暮らしの知恵に学び、「もったいない」の心を育て、無駄のない町の暮らしを創造します。
2. もともとは貴重な資源である「ごみ」の再資源化を進め、2016年度までに「ごみ」の焼却・埋立て処分をしない町を目指します。(〃は、報告者)
3. 大木町は、地球上の小さな小さな町ではありますが、地球の一員としての志を持ち、同じ志を持つ世界中の人々と手をつなぎ、持続可能なまちづくりを進めます。

以上宣言します。

2008年3月11日大木町議会

■生ごみ分別

○バケツコンテナ方式による裸回収

- ・山形県長井市レインボープラン方式
- ・異物混入率1%以下

○週2回収集

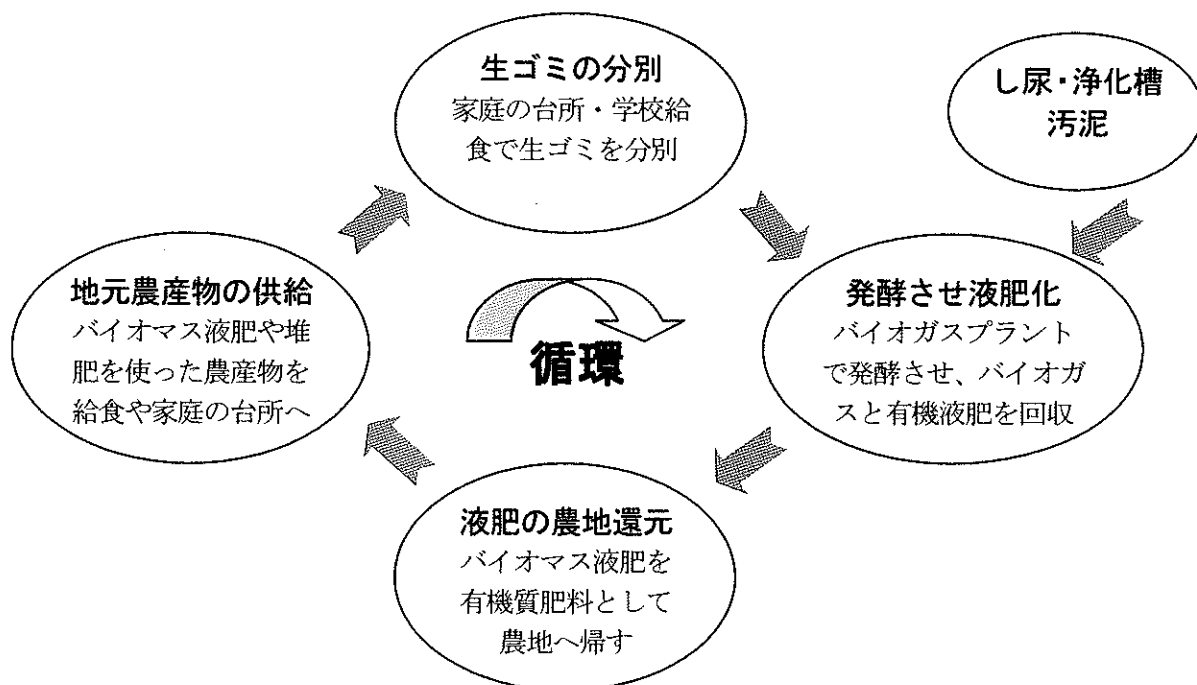
前日に収集バケツの配達、祝日も収集、生ごみ処理は無料

○2007年4月から実施

燃やすごみは週1回

○事業系は10kgあたり50円の処理費

■生ごみの資源化を支える地域循環システム



■生ごみ循環事業の効果

1. ごみの減量効果—ごみが半減（重量）する
2. 地域ぐるみの協働事業（地域の一体感の醸成）
3. 地域農業への貢献
4. 環境負荷の低減
5. ごみ処理費の削減
6. 地域雇用の創出



地域の活性化に貢献

■バイオガス液肥（くるっ肥）を活用する

- 年間約 6,000 t の液肥を生産し、水稻・麦など土地利用型の作物に使用
 - ・使用量：5～7 t / 10 a、散布面積：約 50 h（現在、年間に町内の水稻・麦等の 1/2 に散布）
 - ・液肥散布車や流し肥え方式による散布
- 普通肥料登録として認可
- 液肥料＝無料、散布料＝1,000 円 / 10 a
- 液肥利用の課題
 - ・貯留と運搬・散布設備が必要
 - ・成分調整と栽培技術（施肥基準など）の確立
 - ・臭い（あまり気にならない）

■ごみゼロをめざそう！

- ごみゼロへの挑戦
 - 2006 年 10 月～ 生ごみ分別開始
 - 2010 年 10 月～ 草木類分別開始
 - 2010 年 10 月～ プラスチック分別開始
 - 2011 年 04 月～ 地区回収を集団回収扱い（地区がリサイクル業者に直接販売＋集団回収報償金）
 - 2011 年 10 月～ 紙おむつ分別開始

地区 分別 収集 の 区分	No	分別区分	No	分別区分
	1	空き缶類	12	金属製調理具
	2	空きビン類(使い捨て瓶)	13	その他金属類
	3	活きビン(ビール瓶・一升瓶)	14	釘・ネジ
	4	ペットボトル	15	その他不燃物
	5	白色トレイ	16	食用廃油
	6	蛍光管	17	飲料用紙パック
	7	乾電池・ライター	18	新聞紙
	8	陶器類	19	ダンボール
	9	ガラス類	20	その他の紙類
	10	電球等	21	古着・古布
	11	小型家電		

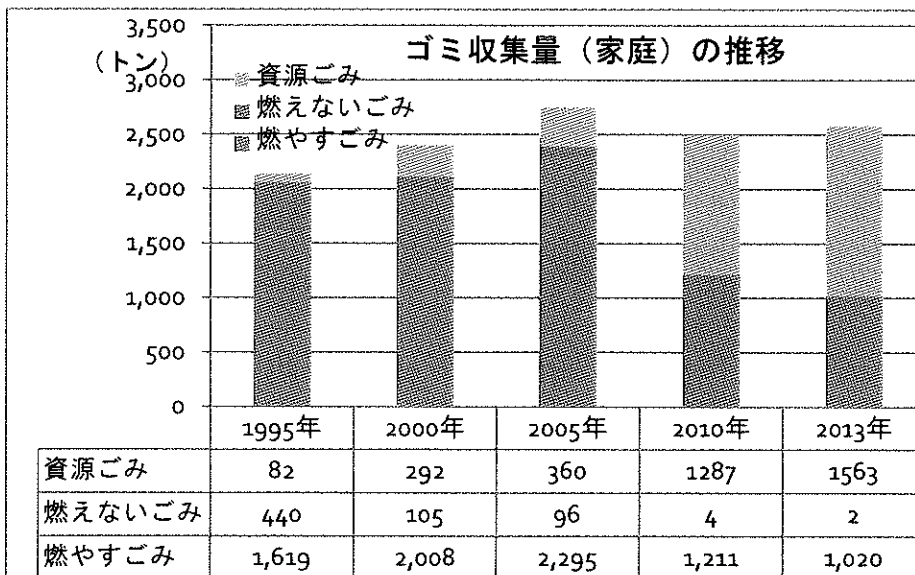
そ の 他	No	分別区分	No	分別区分
	22	生ごみ	25	紙おむつ
	23	廃プラスチック	26	粗大ごみ
	24	草木類	27	燃やすごみ

■ごみ袋の価格

ゴミの種類	容量	金額
燃やすごみ	指定袋(中)35L	600円(10枚)
	指定袋(小)15L	300円(10枚)
プラスチック	指定袋(大)50L	150円(10枚)
	指定袋(中)35L	100円(10枚)
紙おむつ	指定袋(小)15L	150円(10枚)
粗大ごみ	指定シール	250円/1枚
指定施設直接搬入ごみ	10kgあたり	200円

※生ごみ、地区で分別した資源物(家庭から出るもの)は無料

■ゴミ収集量(家庭)の推移



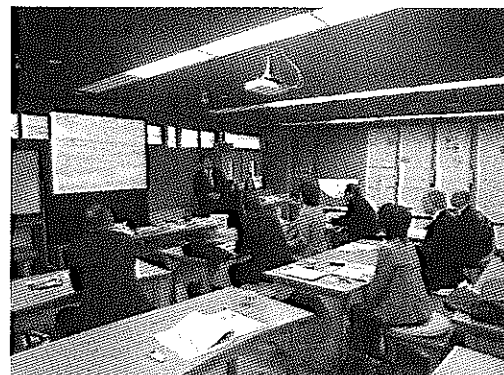
ゴミ排出量の推移

	排出量(t)		2013年度 g/人・日	同左 浜田市
	2005年度	2015年度		
燃やすごみ	3004.9	1240.7	236	759.0
燃えないごみ	95.9	2.5	0.4	106.8
資源ごみ	541.1	2127.5	405	163.5
(うち生ごみ)		(1168.7)	(222)	
合計	3641.9	3374.8	641.4	1,029
リサイクル率	14.9%	63.1%		15.9

7、まとめ

上記の二つの表からも分かるように、2006年度に完成したおおき循環センターの活用を中心とする循環のまちづくりや、2008年度のゼロ・ウェイスト宣言を具体化したゴミ分別の細分化を中心と各種施策の展開により大木町では、ゴミ総量を減らしながらリサイクル率を驚異的なまでに引き上げることに成功している。

これは、合併を選択せず、住民協働のまちづくりを推進してきた歴代の町長をはじめとする執行部の姿勢・哲学によるところが大きいと感じたが、同時に、循環センター設立に関わられた副町長が、前後約20年にわたり環境問題に関する職場で働かれた点も無視できないと感じた。首長をはじめ執行部のまちづくりに対する思いは、人事にも及ぶことも学んだ。



研修の様子

大牟田市

1. 視察先

福岡県大牟田市

2. 視察に至った経緯

浜田市において高齢化が進み、高齢者運転事故も多発傾向にあり、認知症問題も喫緊の課題である。大牟田市は認知症問題の先進地であるとのことで視察に至った。

3. 大牟田市の概要

福岡県の南端、有明海に臨む。石炭とのかかわりが深く、明治・大正時代、石炭の採掘とともに石炭を原料とする化学コンビナートを形成し、日本の近代化を牽引した。

■人口：約 118,800 人、約 57,200 世帯

■面積：81.45 km²

■目指す将来像：人が育ち、人でにぎわい、人を大切にするホットシティおおむた

■予算：559.5 億円 (H28 当初)

■財政健全化比率：◇実質公債費比率：9.4%、◇将来負担比率：87.4%

■議員定数：25 人

■首長：中尾昌弘【s 29.10.17 生まれ】2 年目（元市職員 企画総務部長、副市長歴任）

■観光：世界遺産「三池炭鉱跡、三池港、専用鉄道敷跡」、大牟田市動物園、「大蛇山」夏祭り

■特産：巨峰、早生みかん、海苔、高菜、かすてら饅頭、草木饅頭、大牟田ラーメン etc

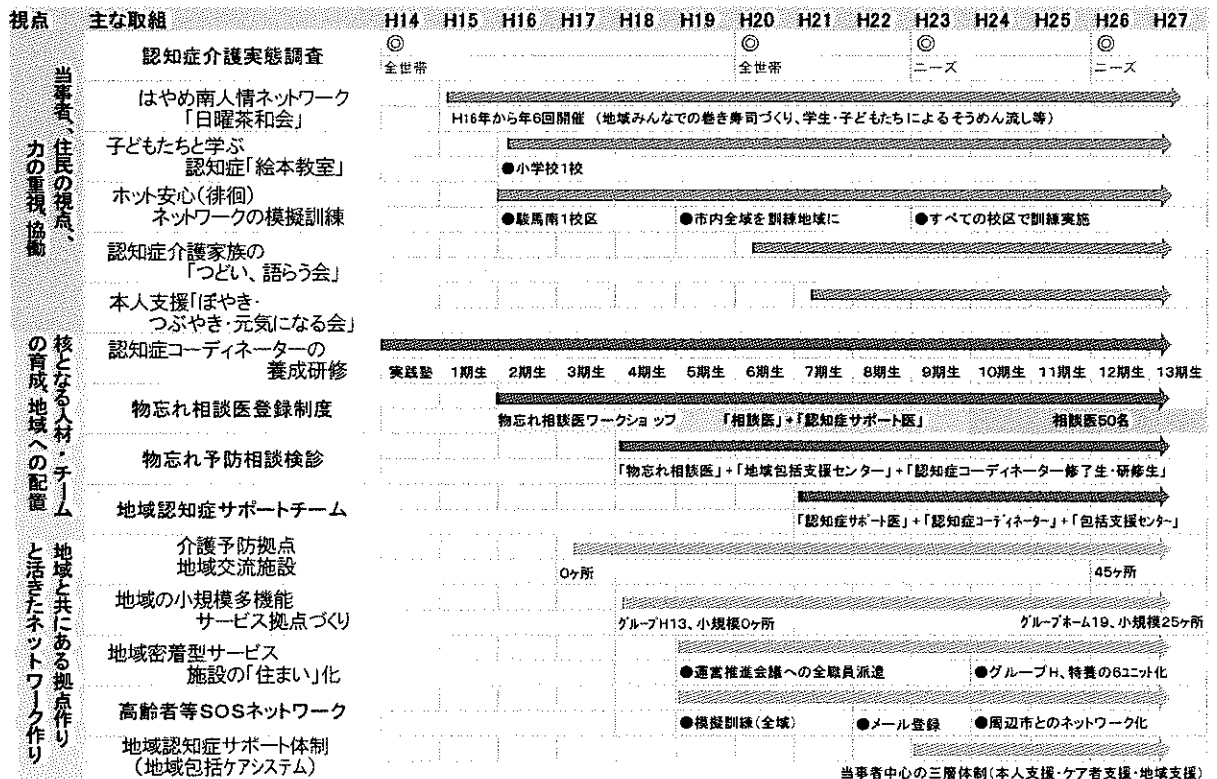
4. 調査項目

○地域認知症ケアコミュニティ推進事業について

5. 視察内容

大牟田市議会事務局の中園事務局長の丁寧なる迎えをいただき、宿泊ホテルから研修先の大牟田市役所にて視察を行った。中園事務局長から大牟田市の概要を説明していただき、調査項目である「地域認知症ケアコミュニティ推進事業」について保健福祉部の池田調整官より説明があった。以下、内容を記す。

■認知症ケアコミュニティ推進事業 取組みの経過



1) 事業所と行政の協働による「認知症ケアコミュニティ推進事業」

2000年から始まった介護保険制度のもと、個々の事業者の努力でのサービスの質の向上は勿論ではあるが、行政も支援すべきであろうとの想いで行政の指導によって事業の基盤である「大牟田市介護サービス協議会」をその年に立上げた。

「グループホームふぁみりえ」を開設した施設長が、開設準備への講師に招いたデンマークの認知症コーディネーターの話聞いて欲しいと、市内の全事業所に呼びかけ多くの現場職員が駆けつけたのをきっかけに、2001年の11月に協議会の専門部会として、介護事業所の職員9名の運営委員と行政の事務局による「認知症ケア研究会」下図がスタートした。

《大牟田市 認知症ケア研究会》 現：ライフサポート研究会

- ・運営委員：市内の介護事業所に勤務する専門職員（9名《H26.10月で32名、会員224名》）
- ・事務局：大牟田市 保健福祉部 長寿社会推進課

研究会の初仕事（国からの補助金を活用）として、市内全世帯を対象にした「認知症高齢者を支える地域づくりの必要性」についてアンケート調査を行い、「必要と思う」に2,661人が、「思わない」に512人が回答を得るとともに、他にも2,200件の意見が寄せられ、改めて「認知症対策や地域づくり」の必要性が浮き彫りとなった。

2) 中核となって地域を支える「認知症コーディネーター」

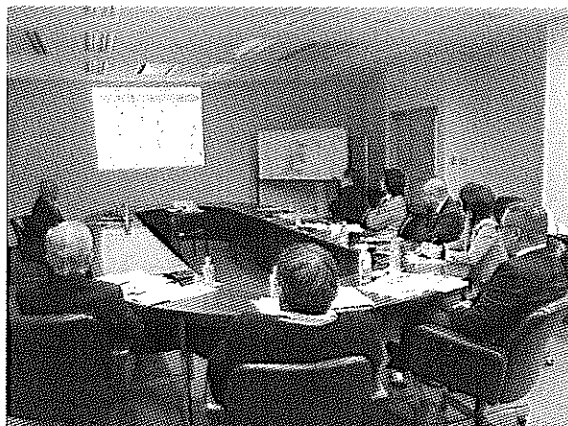
デンマークの認知症コーディネーターをヒントに、ケアの現場や地域で認知症の人の尊厳を支え、認知症本人や家族を中心に地域づくりを推進していく人材である「認知症コーディネーター」養成（受講資格は認知症ケアの経験が5年以上で、研修は12人程度で毎月2日間の研修を2年間かけて終了する）を2003年からスタートし、2015年度末までに117名が終了している。

この認知症コーディネーターは、地域包括支援センターや小規模多機能型居宅介護事業所などの地域密着型サービスの責任者には配置の義務付けをしている。また、認知症の早期発見から進行していくプロセスの中で、状態の大きな変化点必ず現れ、このとき介護者も介護現場も皆さんが戸惑い、対応に苦勞される場面必ずあり、専門医とともに現場へのアドバイスや本人支援介入し、終末期に至るまでずっと関わっていくという役割も担っている。

このほか、認知症コーディネーターは専門医らと一緒に、「物忘れ予防相談検診」や「認知症予防教室」、「認知症SOS模擬訓練」や「絵本教室」でも中核となって活動している。

3) ほっと・安心ネットワーク「まちを挙げての認知所SOS訓練」

毎年9月21日の国際アルツハイマーの前後の日曜日、まちを挙げての「認知症SOS模擬訓練」が行われる。これは、認知症の人が行方不明になったとの想定で行方不明役の人が町をふらふら歩き、警察と行政によって、地域住民・警察・消防団・学校・タクシー会社・商店などに協力を依頼し行方不明者を発見し、保護するというものである。実行委員は、◆民生委員・児童委員協議会、◆公民館連絡協議会（自治会）、◆社会福祉協議会、◆地域包括支援センター、◆地域交流施設（小規模多機能型居宅介護事務所）、◆認知症ライフサポート研究会、◆大牟田市長寿社会推進課で構成される。



研修の様子

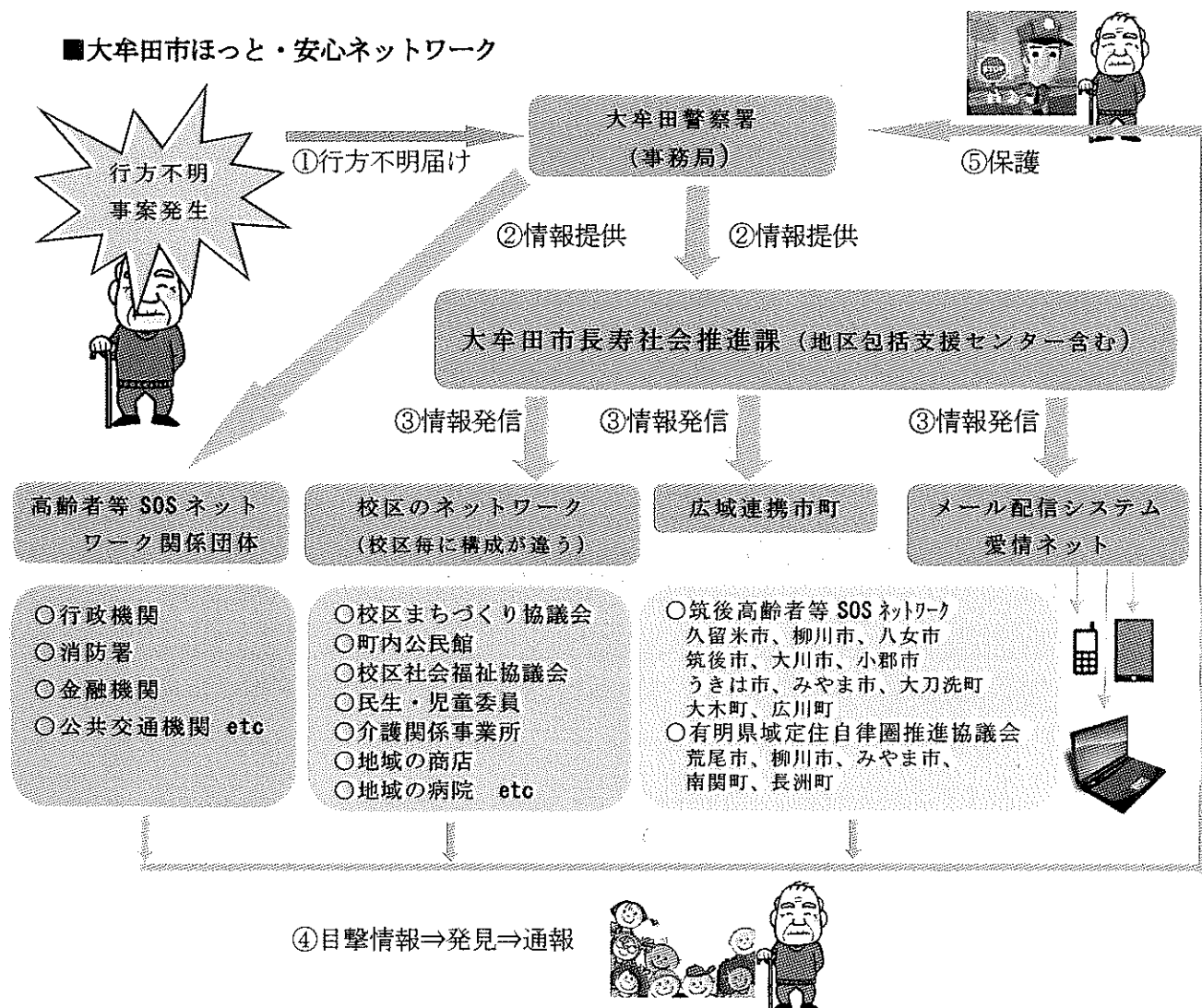
■愛情ネット（携帯メールの受信画面）

【SOS高齢者等行方不明者情報】
 2017年1月21日 20:32
 「大牟田地区高齢者等SOSネットワーク」
 により、所在不明者情報の提供がございました。
 よろしくお願いたします。

(所在不明者情報)

【氏名】 道下 文男 様
 【年齢】 64歳
 【性別】 男性
 【住所】 浜田市日脚町
 【所在不明発覚時の時間】
 1月21日 20時30分頃
 【服装】 紺色のジャンパー、黒色の
 スポン、グレーのニット帽
 【特徴】 身長約1m70cm、標準体重、
 少し右足が不自由で
 白髪交じりのオールバック
 【その他】 よく、ホームセンターの
 ナフコへ立ち寄っていた。

■大牟田市ほっと・安心ネットワーク



■模擬訓練参加者は、2007年度：311人 ⇒ 2015年度：3,127人（全住民の1/4）となり、地域住民の認知症への関心の高まりが感じられる。

	25年度	26年度	27年度
訓練参加者合計 (人)	2,019	3,083	3,129
外出役数 (人)	69	107	95
外出役への声かけ (人)	953	1,506	1,627
模擬訓練参加校区数	21	21	21
ポスター養成講座開催数	40	38	43
〃 受講者数 (人)	999	1,102	1,322
他都市からの視察 (人)	138	177	173

■模擬訓練実施結果（最近の3年間）

※これまでの視察者 約3,000人（うち、模擬訓練 1,056人）

4) 子どもたちと学ぶ認知症「絵本教室」

■絵本教室では、認知症の人の気持ちや自分たちにできることを話し合います。

- 認知症って何？
- 認知症の人の気持ちって？
- 僕たちにできることはある？

6、まとめ

池田調整監は、この道17年のベテランであり、委員から ①財源について、②メール配信ネットワークについて、③認知症コーディネーターの養成について、④認知症 SOS 模擬訓練について等々時間をオーバーしての質疑応答があったが、親切丁寧に尚且つ解りやすく説明していただいた。

浜田市も同じ2000年に介護保険事業に取り組んだわけであるが、なぜここまで大牟田市と差がついたのかと愕然とした次第であり、今回の視察において、大牟田市の「介護保険事業計画や地域福祉計画に成果と実践課題を反映させながら、認知症をきっかけに、「子どもも障害を抱える人も、高齢者も、すべての人が支え合えるまちづくり」への、地域福祉の再構築、新しいコミュニティの創造は、是非とも浜田市においても取り入れるべきであると考えた。



大牟田市議会議場